

# I 手びき書の利用にあたって

OHPはここ十数年の間に著しい普及をみ、本県においても、表-1のように高い保有率を示している。

OHPの普及にともなってOHPの利用も活発になり、OHPやOHP教材について、また参考図書について本センターへの問い合わせも多く、研修講座の中にもTP作成の研修を入れるなど要望にこたえるよう配慮している。

こうした中で、すでにOHPに関して、多くのすぐれた図書が出版されているが、教育センターでの講座用テキストとして、また、研修後先生方が手軽に利用できる手びき書として「OHPの活用とTP作成の手びき」を作成することになった。

項目 校種	保有率	1校平均 保有数	1台当 学級数
小学校	100%	6.8台	1.6学級
中学校	100	8.5	1.4
高等学校	100	5.0	3.7
養護教育 諸学校	100	2.9	3.8

表-1 OHPの保有状況 52年12月現在

※1台当学級数=総学級数÷総保有数

## 1. 手びき書編集の趣旨

OHPの利用も特定の先生の利用にとどまらず、多くの先生方が利用するようになってきた。そこで、利用するにあたって、「OHPはどのような使い方ができるのか」、「OHP教材をどのようにして製作・準備したらよいか」、「OHP教材を授業の中でどこにどのように位置づけたらよいか」などの問題点が指摘されるようになった。

この手びき書は、これらの問題点を解決する手助けになるよう配慮し、その基礎となる事項を集め編集したものである。

## 2. 内容の構成

上記の趣旨にもとづいて、この手びき書は大きくわけて「OHPについての理論」、「OHP教材製作の方法」そして「OHP教材の活用例」の3つの内容から構成されている。

OHPの理論としては、OHPのもつ特性や取り扱い上の留意点、さらにOHPの各種利用法について述べ、OHP教材製作については、製作に必要な材料・器具・製作方法について触れている。

また、活用例では、OHP(TP)の活用の場・方法を単に羅列することを避け、教科、道徳、特別活動における活用の例として、指導過程の流れに即した活用法と、指導場面・指導内容に即した活用法にわけて取り上げ、具体的にTP例を示し、その活用のしかたにふれ、ひとつの例として記述している。そこで同じ教科での他の教材への応用も可能であり、また、他教科での同じような場面での活用も考えられる。

## 3. 用語、記号のみかた

OHPに関する用語のなかには同じことがいろいろな用語で表現され、なかにはまぎらわしい用語もある。この手びき書ではこれらのうち一般的な用語を用い統一した。

また、用語についての簡単な解説を巻末に資料として載せ、活用しやすいよう配慮している。

図表等については、次のように表示してある。